

## ラボ・センター紹介

### 地域活性ラボ

(Regional Development and Vitalization Laboratory)

担当教員: 前野隆司教授、神武直彦准教授、白坂成功准教授、中嶋聞多特別招聘教授、林美香子特任教授、保井俊之特別招聘教授、他

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/rdvl/>

#### 目的

地域活性ラボでは、ゼミの開催や地域の視察等を企画・運営し、地域活性化に関連する学問の体系化と事例研究を行っています。具体的には、月に数回程度のゼミを行い、情報交換を行うとともに、地域活性学の体系化と発展を担うことを目的としています。また、地域活性学会地域活性化メソドロギー研究部会と連携して活動を行っています。他大学、国・地方、企業・事業者等の方々にも参加頂き、よりよい社会を構築するためのオープンで建設的な議論を行っています。ご興味のある方はぜひお気軽にご参加ください。

#### 研究テーマの例

- 研究構造分析等を用いた地域活性化の研究分析とメソドロギー体系化研究
- 地域活性化のメカニズム研究、指標化・定量化方法論・方法の研究
- 情報技術、オープンデータ、経済学、行政学等に基づく地域活性化の分析
- 観光、産業振興、芸術振興、スポーツ振興、地域ブランド等の事例研究
- 農都共生、地域支援型農林水産業、商店街活性化などの事例研究
- 協働、協創、NPO、ソーシャルキャピタル等の方法論研究・事例研究
- その他、まちづくり、コミュニティ、地域活性化等に関連する研究



ラボメンバー集合写真



ラボ実施中の様子

### 空間位置情報サービスラボ

(Spatial Location-Based Service Laboratory)

担当教員: 春山真一郎教授、神武直彦准教授、石田剛朗特任助教、他

#### 目的

世の中で生じている社会課題は、ヒトやモノの位置など空間的な要因と密接に結びついたものが多く、それらの社会課題を解決するにはその空間のコンテキストや位置情報を取得し、分析し、意思決定する必要があります。それらに関する研究を分野横断的に実施することが空間位置情報サービスラボの活動目的です。具体的には、国内外の企業や国家機関、大学と連携して先端研究を推進するとともに、空間位置情報サービスに関係する国際会議やシンポジウムの企画運営を行うことで、産業界の発展に寄与していきたいと考えています。ご興味のある方は是非ご連絡の程、宜しくお願い致します。

#### 活動の事例

- 視覚障害者向けのガイドシステムなど空間位置情報アプリケーションの研究
- ヒトやモノの位置に応じた災害時緊急メッセージ配信システムの国際プロジェクト
- 公共空間における最適照明、最適空調のためのセンサシステムの研究
- 可視光通信技術やIMES (Indoor Messaging System)、自己位置推定法による屋内外シームレスな測位技術の研究
- Location Business Japan やAsia Oceania Regional Workshop on GNSSの企画運営
- MITやパデュー大学、デルフト工科大学、RIMES (アフリカ・アジア地域自然災害防災総合機関) などの共同研究や学生交換



RIMES (アフリカ・アジア地域自然災害防災総合機関)との連携調整



視覚障害者向け可視光ナビゲーションシステムの実証



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館  
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

**SDM**  
System Design and Management